

総合的な評価の視点を踏まえた 水関係の施策評価について

平成26年2月17日

水関係の施策

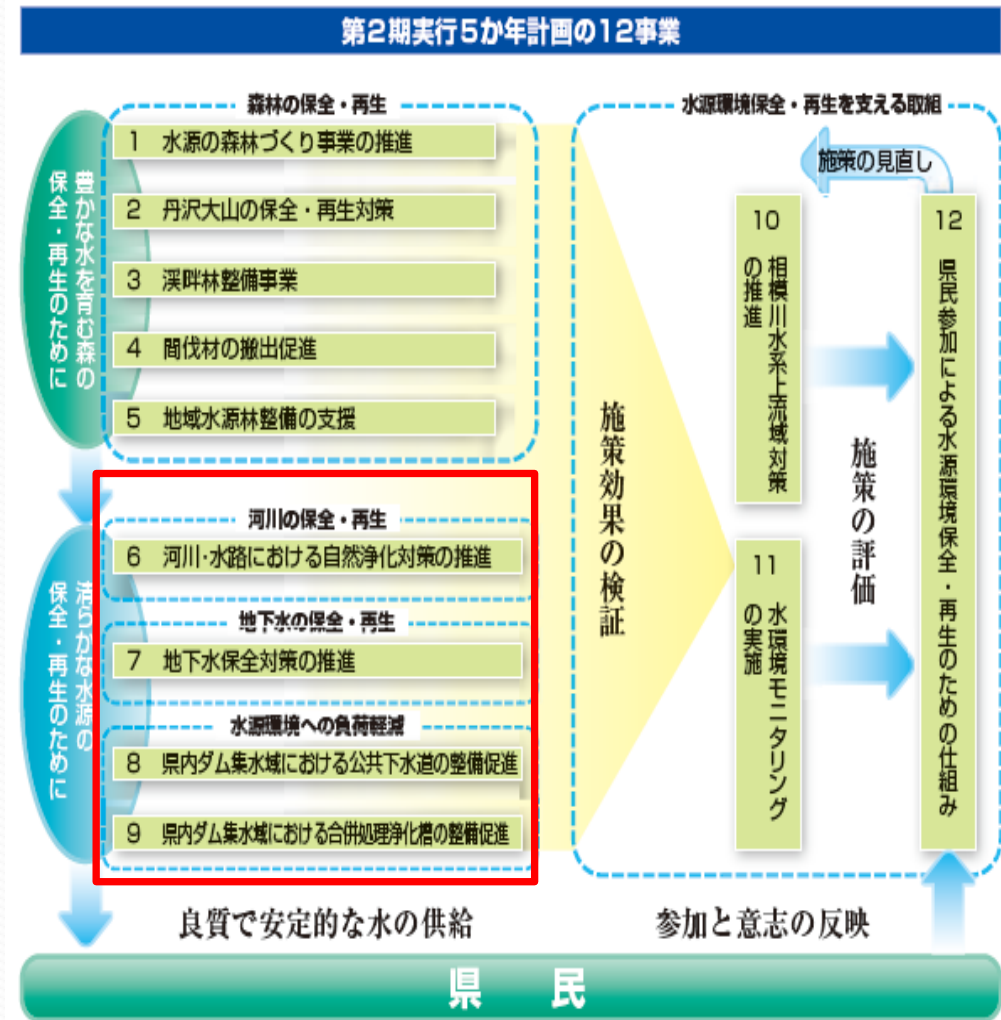
【第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画】

＜森林関係の施策＞

- 1～5番事業
- 総合的な評価の視点を踏まえた施策評価について、検討が進められている。

＜水関係の施策＞

- 6～9番事業
- 事業効果の把握が困難
- 総合的な評価の視点を踏まえて、できるところから施策評価についての検討を進める。



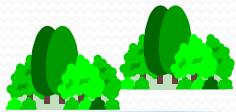
水関係の各事業ごとの施策評価

ダム湖の水質改善

- 8番事業 公共下水道の整備
- 9番事業 高度処理型合併処理浄化槽の整備

評価

負荷軽減量(理論値)の把握
(事業モニタリングに代えて窒素・リンの流入抑制効果を把握)



河川中流域の水質改善・生態系保全

- 6番事業 河川・水路の自然浄化対策

評価

事業モニタリング(水質調査)
BODによる水質改善効果の把握

取水・浄水・配水施設

海

地下水の水質維持・水量確保

- 7番事業 地下水保全対策

評価

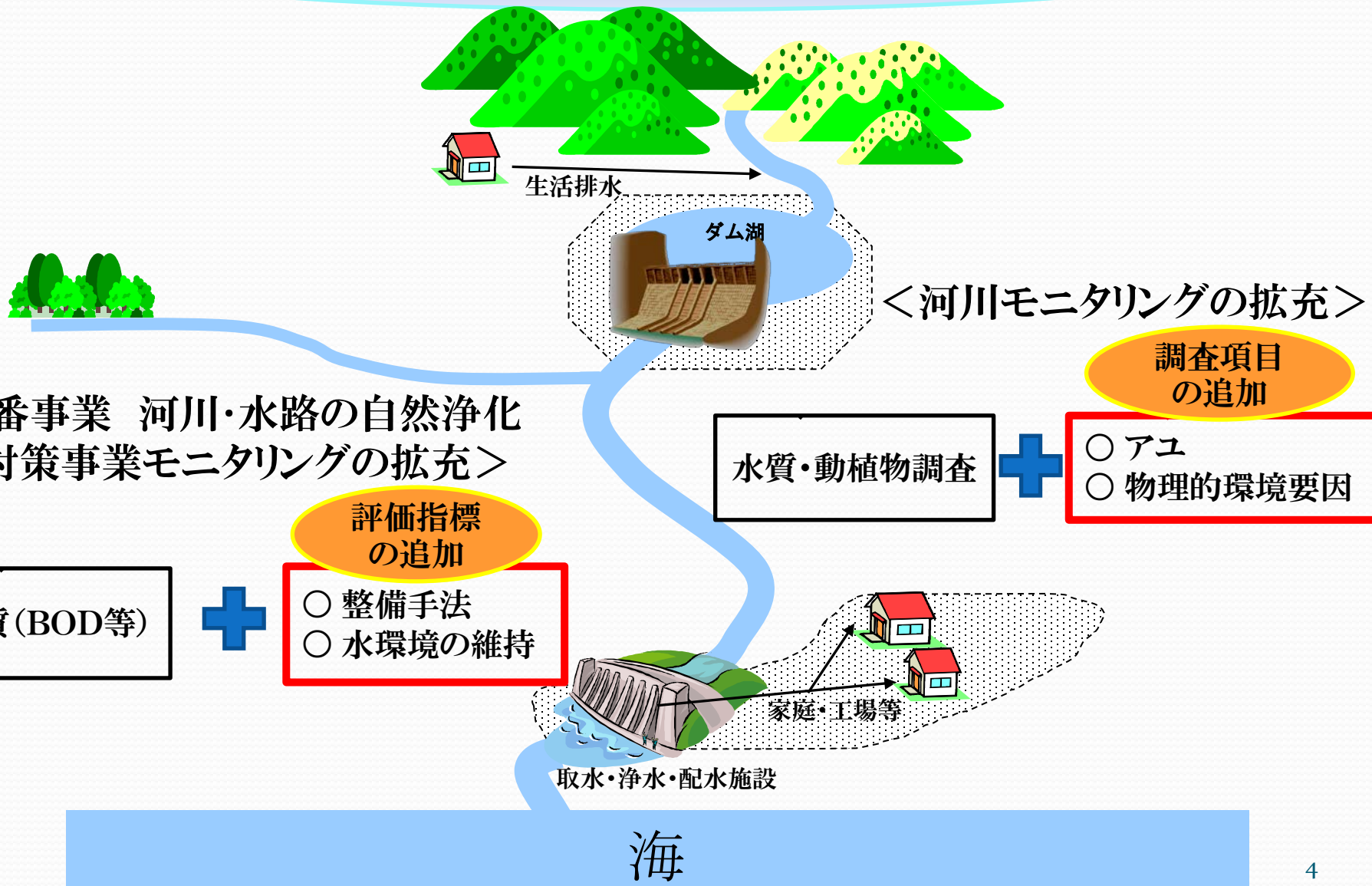
事業モニタリング
(水量・水質監視)

地下水

河川モニタリングにて、河川全体の施策効果の検証(水質・動植物調査)

総合的な評価の視点を踏まえた検討

河川中流域の水質改善・生態系保全



河川モニタリングの拡充

河川モニタリングの概要

- マクロな視点で河川環境の経年変化を把握
- 県民にわかりやすい動植物やその他の多様な指標をもとに河川（本川、支川、溪流を含む）を5年ごとに調査

調査項目

1 水質

pH、BOD、COD、SS、DO、窒素、リン など

2 動植物

- 底生動物
- 魚類

上流の指標種

中流の指標種

- 両生類
- 鳥類
- 植物
- 付着藻類の種類

ヤマメやイワナ

アユ

中流域に広く生息
環境基準

追加

3 物理的環境要因

- 瀬と淵がある
- 湧水を遮断しない
- 伏流水がある
など

追加

6番事業の評価指標の拡充

- 市町村が実施主体
 - ・ 河川・水路等の整備
 - ・ 事業モニタリング
(水質調査)
- = BODを指標として評価

＜事業実施上の課題＞

- ・ 水質改善効果が現れるまでには時間がかかる。(現状のモニタリング結果は誤差の範囲)
- ・ 整備効果が見えない。
- ・ 効果のある整備手法がわからない。
- ・ 整備箇所が増えない。



対応① 整備指針の作成

対応② 指針に基づいた整備であるかどうかを評価

水質(BOD等)



- 整備手法
- 水環境の維持

6番事業の新たな指標の評価方法

①水質、②整備方法、③水環境の維持
3つの指標ごとに評価項目を作成し、点数を付けて評価

たとえば・・・

①水質

水質調査の結果
BODが0.6mg/L **4点**



看板等を設置して普及啓発している **2点**
学校や自治会等で環境学習を行っている **1点**

②整備手法



瀬と淵がある **4点**
落差工がある **2点**

③水環境の維持

① 水質 **4点**
② 整備手法 **6点**
③ 水環境の維持 **3点**
合計 **13点**

6番事業の新たな指標の評価実例

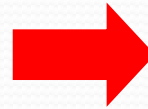
◎ 新たな評価の実例(平成26年1月10日実施)



厚木市善明川 工事前

BOD=1.8mg/L

工事後



厚木市善明川 工事後

BOD=1.6mg/L

① 水質	22点
② 整備方法	30点
③ 水環境の維持	9点
合計	61点

① 水質	22点
② 整備方法	45点
③ 水環境の維持	15点
合計	82点

水質改善効果は確認できないが、整備方法や水環境の維持を点数化することで整備効果を把握できる。

6番事業の新たな指標の導入効果

市町村担当者に対して..

- 市町村担当者が整備効果を実感
- 事業実施を積極的に検討
- 整備箇所が増加

県民に対して..

- 事業効果をわかりやすく把握
- 水辺環境を自ら守っていただく意識を醸成

水質浄化

生態系保全



将来にわたる
良質な水の安定的確保

まとめ

- 水源環境保全・再生施策の評価については、
 - ・ モニタリングなどを通じて、事業効果を評価し、
 - ・ 県民にわかりやすく示すことが求められている。
- しかしながら、水関係事業については、
 - ・ 現状のモニタリングでは事業効果の把握が困難



- そこで、県民にわかりやすい施策評価とするため、
 - ・ 現状の評価手法を補完するよう、できるところから検討を進める。